

消雪パイプをメインに

新たに農村総合整備事業が

スタートします!!

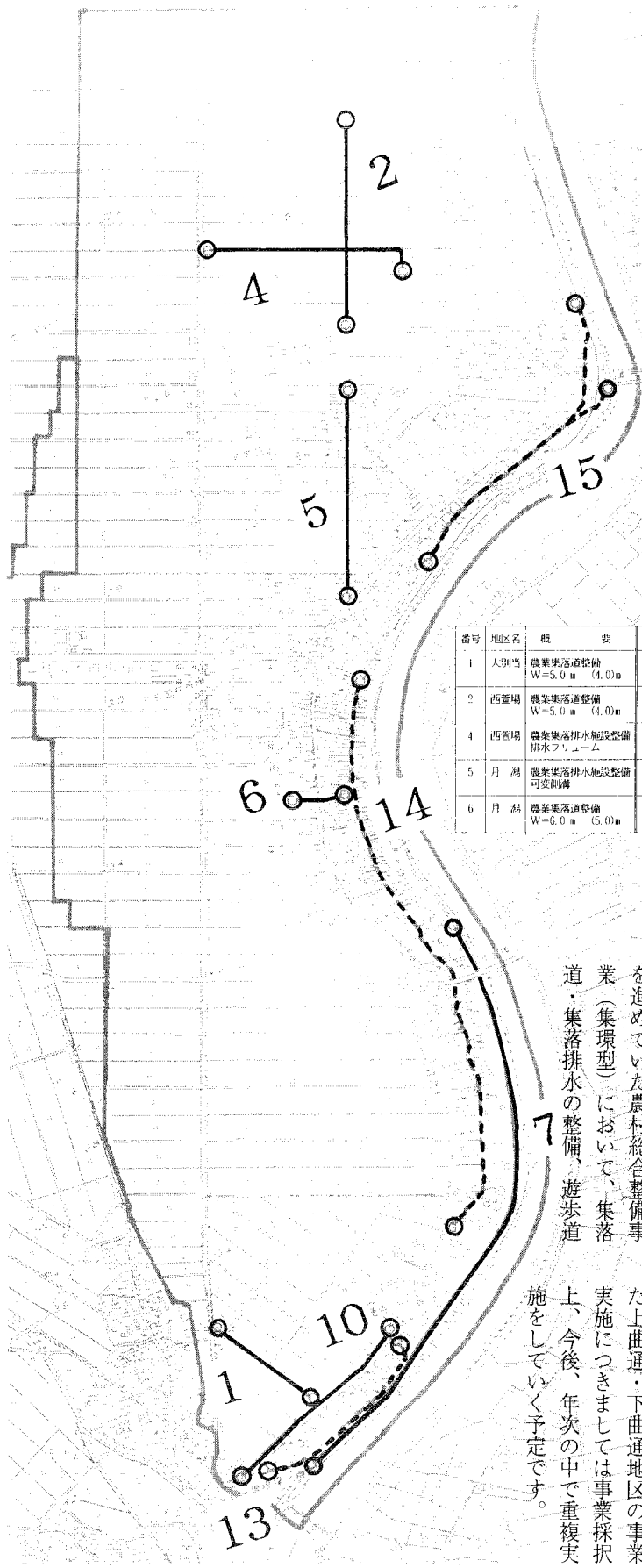
昭和54年度に着手以来、18年の歳月をかけて取り組んできた農村総合整備モデル事業が平成8年度で完了し、農業生産基盤をはじめ、生活環境基盤の整備を図ってまいりました。しかしながら、地域の社会基盤整備は都市に比べ、依然として立ち遅れた現状であり、地域の方々より快適な環境づくりが強く求められていました。

この様な折、以前より計画を進めていた農村総合整備事業（集環型）において、集落道・集落排水の整備、遊歩道

施設整備並びに防災安全施設として消雪パイプの整備等生活環境を柱にした事業計画が大別当・月潟・西置場をエリアとして、平成10年度から平成14年度までの5ヶ年で実施されます。

実施路線については、年次的に着手していく予定ですので、実施の際はご理解並びにご協力の程よろしくお願います。

尚、同時に計画を進めてきた上曲通・下曲通地区の事業実施につきましては事業採択上、今後、年次の中で重複実施をしていく予定です。



板橋区との交流を開始

東京都

平成9年度にJA月潟村(現JA越後中央月潟支店)が行ったマーケティングサーチの一環として、今年1月に東京都板橋区のモニターと懇談会をいたしました。それをきっかけに、本年度から区内で開催される各種イベントに参加させていただくことになり、去る5月9日に行われた区のイベントにも早速参加いたしました。

まだまだ始まったばかりの小さな交流ですが、これからの展開が期待されます。

イベントに参加して

原 利 浩

5月9日、JA越後中央月潟支店の一行は、98いたばしファミリーフェアに参加するために、東京都板橋区にある金沢小学校にお邪魔しました。

ファミリーフェアというのは、年に一度板橋区が行っている、くらしや環境について考えるイベントで、消費者団体や地元商店街のメンバーあるいはボーイスカウト等のボランティア団体が、日



頃の活動を住民にアピールする目的で開催されています。月潟村でいえば、健康展のような感じなのですが、その

規模は比較にならず、会場は、小学校のグラウンド、区の総合体育館、区民公園の3カ所で行われ、参加総数5万人にもなります。

そこに月潟村のPRを兼ねて、消費者から農業に触れてもらい、月潟村の農業と板橋区の住民が今後どのような方法で交流したらよりよい共存ができるのかを探るために参加しました。

まずはアンケート調査。こういった交流には情報の収集は欠かせません。消費者がなにを考え、なにを望むのかは実際の声を聞いて初めて知ることでもあります。アンケートの景品は、もちろん月潟のコシヒカリ。ちゃっかりPRすることも忘れていません。

次にご飯の食べ比べをしました。これは他県産のお米3種類と月潟産のコシヒカリの計4種類を米場者から試食してもらい、美味しい物から順番に点数を付けるというものです。消費者のみなさんからは舌だけを頼りに評価してもらいました。結果は堂々の1位で、来場者の2人に1人が月潟産が1番美味しいと答え



てくれました。

実は、この企画を成功させるために、以前の失敗を参考にしました。というのも、ご存じかも知れませんが、去る3月19日に、板橋区生活文化課と区が選任する消費生活調査員が農産物の生産現場を視察に来られました。その際、実際に月潟村で収穫されたものを食べてもらおうと、JA女性部及び青年部のメンバーが前日から準備をしていたのです。その時は、お握りにして出したのですが、予定が遅れたため水分が蒸発しがちがチになっていました。この失

敗を踏まえたのが、今回の成功につながったのだと思います。

その他に、お米がどうやって生産されるのかを書いたパネルの展示も行いました。

また、ファミリーフェアの企画ではないのですが、モニターに対するバケツ苗の配布も行いました。今年からJAは板橋区を対象に、農業モニターを募集しています。募集にあたっては、月潟郵便局からご支援をいただき、板橋区内全郵便局に申し込み書を設置していただきました。お陰で、17名のモニターの参加が得られました。今後はみなさんを通して月潟村をPRしていきたいと考えております。

今の消費者は、生産者に対して顔の見える交流を求めています。そんな方々ともう一歩踏み込んだ、生活に密着した交流を行いたいと考えています。

この活動は今年から始めたばかりで苦労は多いのですがこれからの農業のあり方の一つとして進めていこうと思います。